

平成26年度全国学力・学習状況調査が終了して3週間が過ぎました。各学校では、調査の問題や解答状況等の分析が始まり、学力向上に向けた取組を始めておられることと思います。

全国学力・学習状況調査の特徴

さて、今回の調査では、過去の調査結果の分析を通して明らかになった「成果」と「課題」のうち、「課題」として考えられる内容について、改善状況を確認する問題が数多く出題されました。

小学校算数B「割合」の問題例

例えば、小学校算数の学習内容である「割合」は定着が難しい内容の一つです。今回の調査では、以下のような問題が出題されました。

(2) まことさんは、使いやすいはしの長さのめやすについて発表します。



使いやすいはしの長さのめやす

使いやすいはしの長さのめやすは、「一あたま」^{DE}とされています。

一あたまは、親指と人差し指を直角に広げたときのそれぞれの指先を結んだ長さです。

一あたまは、一あたまを1.5倍した長さです。

(3) まことさんの発表を聞いて、なつきさんは妹のはしを買いに行こうと思いました。

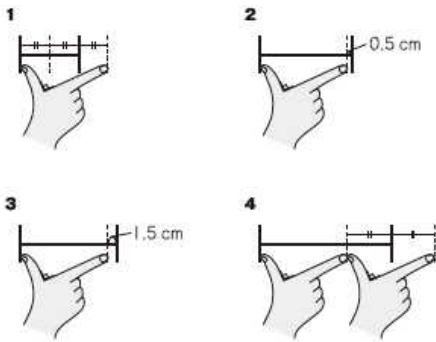
なつきさんは一あたまの長さについてさらに調べ、下のことがわかりました。

一あたまは、身長約10%の長さです。

妹の身長は140cmです。

妹の身長と、左の使いやすいはしの長さのめやすをもとに、一あたまの長さを求めると、はしの長さは約何cmになりますか。求め方を言葉や式を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

下の1から4までの中から、一あたまの長さを表しているもの(—)を1つ選んで、その番号を書きましょう。



(2) は「示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができるかどうかをみる」問題です。平成24年度の調査で同様の問題が出題され、その時の正答率が34.3%でした。二つの数量を取り出し、基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえ、図に表す学習経験の質が問われています。

誤答分析を授業改善へ

また、誤答に着目してみましよう。(3)の誤答として、例えば、「妹の身長から妹の一あたまの長さを求める式(140×0.1)の代わりに、140+0.1や140×10のような解答はなかったでしょうか。こうした誤答が見られる場合には、誤った式についてその原因を説明し合ったり、正しい式を求める過程を教え合ったりするなどして、数量の関係や操作と式の意味を結び付けて考えることを習慣化していくことが大切です。



このように調査問題には授業改善のヒントがあります。過去の調査問題や誤答例を、授業づくりに活かしていきましょう。

下関市立王司小学校の取組（平成26年度教育課程研究指定校）

下関市立王司小学校では、国立教育政策研究所の指定（教科研究算数）を受け、「割合」指導の研究を進めています。多くの先生が指導するのに苦勞する共通課題の解決を図りつつ、学力向上に組織的に取り組んでいます。今後、授業公開や研究発表会等も行われますので、ぜひご参会ください。

「活用力向上研究事業について」

活用力向上研究事業について

山口県教育委員会の学力向上に向けた施策の一つとして、「活用力向上研究事業」があります。活用力向上をテーマに、児童生徒が、身に付けた知識や技能を思考・判断・表現に生かしたり、新たな知識や技能を習得するためにこれまでの学びを活用したりする授業づくりをめざした事業です。

今年度、最初の取組として、下記の日程で「活用する力を高める研究協議会」が開催されます。国立教育政策研究所から5名の学力調査官が講師として来県されます。全国学力・学習状況調査の教科問題の作成の意図や、今後求められる学力と授業、学校の取組等について講話をしていただく予定です。各校から1名の先生に参加していただきますので、自校の課題や解決のための方策を明らかにした上で参加していただき、講話や情報交換会等を通して、各校の課題や改善策をより具体的なものにしていただければと思います。

日程・講師紹介

活用する力を高める研究協議会		
期日	校種教科	講師
5月20日（火）	中学校理科	学力調査官 藤本 義博 様
5月21日（水）	小学校国語	学力調査官 樺山 敏郎 様
	小学校算数	学力調査官 磯部 年晃 様
5月27日（火）	中学校国語	学力調査官 杉本 直美 様
5月29日（木）	中学校数学	学力調査官 新井 仁 様

（会場はいずれも山口県セミナーパーク）

協議会の成果の周知について

* 研修会の復伝を通して、最新の教育情報の周知と共有をお願いします。これから求められる学力、それを身に付けさせるための学校の取組を共通理解して、指導改善に生かしましょう。

* 2学期には35校の授業づくり拠点校で授業公開が行われます。また、県指定の「調査研究推進校」をはじめ様々な指定校等において、研究授業や研修会等が行われます。チャンスを見つけてぜひ参加してください。

よい授業は日々の積み重ねの中から生まれます。校種、学年、教科の枠を越えた授業研究や情報交換をとおして、児童生徒の学力向上につながる授業づくりを進めましょう。

